

■ セッション 3**工業界及び消費者に対する潜在的影響****■ 食品工業界に対する潜在的影響****- Beate Kettlitz, Director Food Policy, Science and R&D, FoodDrinkEurope****■ 農薬工業界に対する潜在的影響****- Jean-Charles Bocquet, Director General, European Crop Protection A****■ 消費者に対する潜在的影響****- Claus Jørgensen, Senior Project Manager, Danish Consumer Council
THINK Chemicals**

それぞれ産業界とか消費者からはどういう意見が出たかというと、

セッション3として、

3名の代表者から工業会及び消費者への影響について報告されました。その中で、

- ①既存物質が規制された場合の代替品の安全性確保が懸念されること。
- ②そもそも既存物質はリスク アセスメントを実施していること。
- ③既にフランスはビスフェノールAを禁止したこと。

、などが話題提供されました。

22

3名の方々が発表されまして、先ほども発表で代替物質の話が出てきましたが、既存物質が規制された場合の代替品の安全性確保が懸念されること。Aというものを使っ
てはいけないが、Bという代替品は本当に安全なのか。

そもそも既存の物質、農薬等も含めてですが、リスクアセスメントが実施されている
ではないか。

一方、フランスはビスフェノールAを禁止している。こういう両方の立場の御意見が出
ています。

- セッション 4

- 貿易及び農業に対する潜在的影響

- 農業に対する潜在的影響

- Luc Peeters, Chairman of the Copa-Cogeca Working Party on Phytosanitary Questions

- 貿易に対する潜在的影響：アルゼンチン

- Gaston Maria Funes, Minister Counselor, Agricultural Affairs, Embassy of Argentina to the EU

- 貿易に対する潜在的影響：カナダ

- Michelle Cooper, Counsellor and Head of Section, Agriculture and Environment, Mission of Canada to the EU

セッション4として、貿易及び農業に関する潜在的な影響ということが議論されました。特にEU圏内に化学品等を輸出しているアルゼンチンやカナダの方から意見が出ました。

セッション4として、

3名の代表者から貿易及び農業への影響について報告されました。その中で、

- ①アルゼンチンにはEDCsの規制がなく、規制物質をEUに輸出する際に障害があり、規制を造る全ての段階に透明性を確保してほしいこと。

- ②農薬の規制が強化されると農作物の生産量及び品質の低下、コストの増加に伴う価格の上昇、気候変動に伴う新たな疾病に対する対応不能、雇用の低下などが予想されること。

- ③リスクベースの評価を行うべきこと。
、などが話題提供されました。

24

その中では、アルゼンチンには内分泌かく乱化学物質の規制がなく、規制された物質をEUに輸出する際に障害があつて、もし規制を作るのであれば、すべての段階に透明性を確保してほしい。

もし農薬の規制が強化されると、農作物の生産量及び品質の低下、コストの増加に伴う価格の上昇、気候変動に伴う新たな疾病に対する対応ができなくなる。雇用の低下といったことで、規制もほどほどにしておいてくれよというような御意見が出ていた。

さらにここでは、ハザードではなくてリスクベースの評価を行うべきというような御意見が出ていました。

- セッション 5
健康及び環境に対する潜在的影響

- 内分泌かく乱殺虫剤と環境
-Angeliki Lyssimachou, Environmental Toxicologist, PAN-Europe

- EDCのクライテリア：よりよい健康のためのEUの好機
-Génon K. Jensen, Executive Director, HEAL

- ヒト健康影響のリスク アセスメントに関する潜在的影響
-Professor Andreas Hensel, President, German Federal Institute for Risk Assessment

セッション5、これは主にNGOの方々からの御意見です。

セッション5として、

3名の代表者からヒト健康及び環境への影響について報告されました。その中で、

- ①殺虫剤50物質のうち、31物質がEDCsと考えられること。
- ②それらには、代替物質がないこと。
- ③農薬の使用量を低減させること。
- ④オプションとしては、3Aが良いと考えられること。

、などが話題提供されました。

26

この中では、殺虫剤50物質のうち、31物質はEDCではないか。それらには代替品がない。さあ、どうしよう。ただし、農薬の使用量は減らしていこうということで、どうやってというところまではなかなか踏み込めないのですが、方向性はここで明示されていると思います。

オプションとしては3A、3つのカテゴリーに化学物質を内分泌かく乱という立場から分けてみましょう。ただし、政策的な判断はこれまでと同じような判断でいったらいいのではないですか、といったことが提案されていました。

EUの今後の方針に関するまとめ(1)

Martin Seychell氏(European Commission - DG Health and Food Safety)による閉会スピーチからの抜粋

- 透明性を最大限に確保するために、スクリーニング結果と併せてEU Joint Research Centre(JRC)の方法論についても、インパクトアセスメント報告書の公表に先立ち、公表します。
- 公表は事実上今から10ヶ月後以降になることを意味します。
- その時点で、スクリーニングの方法論と結果の両方を提供します。
- 欧州委員会は、化学物質のスクリーニングに用いる方法論に関する出来るだけ速やかな情報提供が望まれている状況を認識しています。

27

以上をまとめまして、最後にSeychellさんから閉会のスピーチがあったのですが、そのときのまとめをさせていただきたいと思います。

EUとしては、透明性を最大限に確保するために、化学物質のスクリーニングの結果と併せて、EU Joint Research Centerの、どのような方法で化学物質のスクリーニングをしていくか、その方法論はインパクトアセスメントの報告書が出る前に公開します。ただし、10カ月以降になる。

スクリーニングの方法論と結果は今後出ますということで、当日はまだ公表はされませんでした。

できるだけ情報提供を早くすることは十分わかっている。この秋に、受注業者が35物質、700物質の5%についてパイロット研究を終えて、その結果をもとに方法論案に改良を加えた上で、専門家を対象にスクリーニングに用いた方法論に関する情報提供セッションを設けるということで、このスクリーニングには、植物保護製品、殺虫剤、除草剤等に関する結果は、この秋にはなんとか手に入れるのではないかと。

EUの今後の方針に関するまとめ(2)

Martin Seychell氏(European Commission - DG Health and Food Safety)による閉会スピーチからの抜粋

- 今年秋、受注業者が700物質の5%についてパイロット研究を終え、その結果をもとに方法論案に改良を加えた時点で、専門家を対象にスクリーニングに用いた方法論に関する情報提供セッションを設けます。
- スクリーニングの一次結果である植物保護製品に関する結果は、今年秋までに入手可能となる見込みです。
- これによって、二次的研究である健康、環境、社会経済に対するインパクト アセスメントの着手が可能となる見込みです。

28

これがある程度完了すると、インパクトアセスメントを行えて、政策が決定できるようになるというのが途中経過になります。

EUの今後の方針に関するまとめ(3)

Martin Seychell氏(European Commission - DG Health and Food Safety)による閉会スピーチからの抜粋

- このような研究については、現在、初期計画段階に過ぎません。欧州委員会では、最適な実施について議論中です。
- すべての影響が、陽性か陰性か、数量化可能か否かに係らず、インパクト アセスメント(IA)において分析され、考察される見込みです。
- IAは、産業界に対する影響のみを評価するものとはならない見込みです。
- 健康に関しては、妥協せず、現在進行中の政策決定において、ヒト健康及び環境の保護が最大限確保される見込みです。

29

このような研究というのは、オンゴーイングで、まだまだ議論中なこと。すべての影響が、ポジティブ、ネガティブ、陽性であるか陰性であるか、数量化可能かどうか、定性的な情報もあるかと思いますが、インパクトアセスメントでは採り入れること。

それから産業界からの意見がたくさん出たが、産業界に対する経済的な影響だけを評価するわけではない。そこに書いてありますように、ヒト健康影響については十分配慮する。あわせて環境への影響も十分に配慮するというので、この結果は、非常に面白い内容になるのではないかと考えています。

EUの今後の方針に関するまとめ(4)

Martin Seychell氏(European Commission - DG Health and Food Safety)による閉会スピーチからの抜粋

- 現在の計画では、これらの研究は2016年中に終了する予定です。
- 研究結果は、規制監視委員会によるインパクト アセスメント(IA)報告書に盛り込まれる予定です。
- 欧州委員会(EC)は、IAが最も適切な科学的根拠及び分析に基づいているかどうかを確認し、IAの質を評価する予定です。
- 最終的に、ECは、IA報告書を公表し、クライテリアに関する政策決定を行う予定です。

http://ec.europa.eu/health/endocrine_disruptors/docs/ev_20150601_co06_01_en.pdf

30

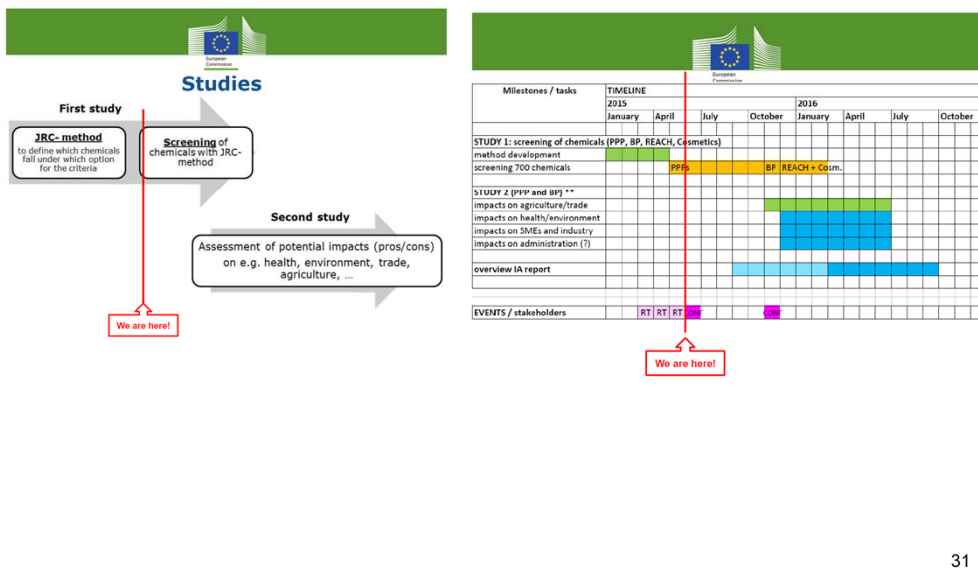
これらの研究は来年中には終了する。これも本当に終わるかなといった感じがありますが、インパクトアセスメント報告書に盛り込まれる予定です。

このインパクトアセスメントの質がよかったかどうかは、今後、第三者によって評価されます。

最終的にはインパクトアセスメント報告書、この検討結果を公表して、クライテリアに関する政策決定を行う予定ということです。

EUの今後の方針に関するまとめ(5)

- 今後のスケジュールは、以下の予定です。



ここまでダーツと固いお話をさせていただきましたが、スケジュールとしては、ここに挙げましたように、we are hereとありますが、まだ研究の途中です。

タイムラインとしては、来年度に向けてインパクトアセスメントを行っていく予定だということが発表されています。

■ 終りに

- ご清聴いただき、ありがとうございました。



ブリュッセル

- kawasima@janus.co.jp

最後に、御清聴いただきましてありがとうございました。